

Let's Know Hiroshima Castle.

しろうや！ 広島城



No.24



毛利氏時代の広島城絵図

芸州広島御分国八州之時御城下屋敷割并神社仏閣割共図
広島市立中央図書館蔵



江戸時代の広島城絵図

寛永年間広島城下図

広島城蔵

ひろしま歴史の小耳 20

絵図に見る広島城の歴史

広島城の築城は中国地方一帯を領有していた毛利輝元によって始められました。今からおおよそ420年前、天正17年(1589)のことです。広島湾へとそそぐ太田川河口部に五層五階の大天守を中心に櫓や堀、石垣などを持つ広大かつ豪壮な城郭が誕生したのです。この毛利氏時代の広島城の姿を伝える絵図がいくつか残っています。これらの絵図と後に城主となった浅野氏時代の広島城の絵図とを見比べると様子があち

こち違ってことに気付きます。その部分とは、①本丸の出入口の場所、②二の丸の有無、③堀の形状などです。これら毛利氏時代の絵図は描く技法などから江戸時代以降に描かれたものであると考えられていることから、計画図とか想像図という見方をされていました。しかし、近年の発掘調査でこれらの絵図と符合する遺構が確認されたことから、実際の様子が反映されているのではないかと考える研究者もいま

す。

広島城はその後、毛利輝元が慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いで敗れたため、福島正則を新たな城主に迎えました。正則は入城早々、洪水などに弱いという平城の弱点を解消するため、毛利氏時代の整備が不十分だった外堀の拡張、櫓の増設といった整備を進めました。この時に整備された広島城の姿が江戸時代を通じてほぼ維持されることになりました。

さて広島城の特徴は、約90万㎡もの広大な城域とそれを取り囲むように櫓が多数設けられていることです。これらの様子を伝える絵図のひとつに、「安芸国広島城図」があります。これは江戸時代中期、元禄14年(1701)広島城の修理

に先だって、幕府に許可申請のために作成されたものの控^{ひか}えです。幕府に提出する資料であるため、石垣・櫓・城門の姿が細かく丁寧に描かれており、天守閣のある本丸を中心に多くの櫓が配置されていたことがよくわかります。特に、西側の太田川に面したところには11基もの二重の櫓が建ち並び、その間を塀で結ばれている姿は壮観です。この様子は西の方向から鳥瞰^{ちようかん}して描かれている「広島全景図」でもよくわかります。



安芸国広島城図



広島全景図(部分)

広島城蔵

この広大な広島城も明治時代以降、城の必要性が無くなり、多くの建物が壊されてしまい、わずかに残っていた天守閣や中御門、二の丸の表御門、多聞櫓^{たもん}、太鼓櫓^{たいこ}などの建物も昭和20年(1945)の原爆投下によってことごとく失われてしまいました。現在私たちは、再建された天守閣や二の丸の櫓群から、江戸時代の広島城の様子を想像することができます。このほかにも、これらの江戸時代の絵図や絵画資料から、広島城のもともとの姿を、時代の移り変わりとともに見て行くと興味深いかもしれませんね。

広島城蔵

(山脇)

城下町こぼれ話

庶民は広島城内のどこまで入れたか？

お城の周囲にはぐると堀や櫓がめぐらされ、城下町からお城への出入りは城門によって規制されていました。こうしたことから、城下町から城内への出入りは厳しく制限され、庶民はめったなことではお城に入ることができなかったのではないかと

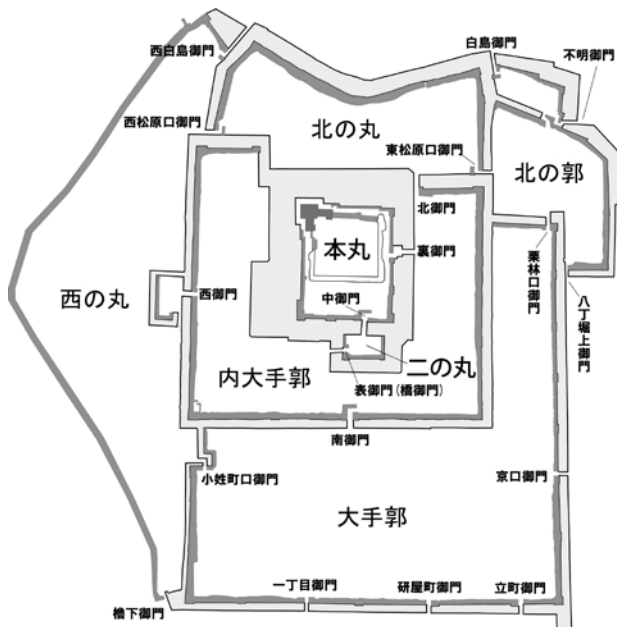
思われがちです。実際のところはどうだったのでしょうか？

江戸時代後期に西本願寺の命令で広島を訪れた越中^{えっちゅう}(現在の富山県)の僧東林^{とうりん}は、2か月余り滞する間に広島城下の各地を見物してまわり、その間

に見聞きしたことを細かく記録しています。それによると、東林は天保3年(1832)12月10日に広島城を見物し、その様子を次のように書いています。

五時(午前8時頃)ヨリ仏院(仏護寺院主)ニ伴テ永公(永照寺西現上人)ト同ク御城二ノ丸橋ノ御門ト云(いう)トコロマテ入り、城池并天守等ヲミル、天守ハ五重ニシテ甚高大ナリ、城亦壯麗ナリ、夫(それ)ヨリアマネク諸士ノ家々ヲ見テ帰ル

これを読むと、僧侶とはいえ、武士でない者でも城内に入って中の様子を見てまわることでできたようです。とはいえ、東林が見物したのは、二の丸の入口にかかる橋御門(表御門)のところまでです。そこから先へは行けなかったのでしょうか？



広島城の郭と門

(門の名称は1800年頃のもの、郭の呼称は便宜的なものです)

東林の頃より少し時代はさかのぼりますが、江戸時代中期に記された「広島^{ひとり}独案内」という本があります。この本は広島城下の名所旧跡を見物人の語り口を通して紹介するもので、広島城についても触れられています。それによると、見物人は南側の一丁目御門から城内に入り、大手郭・内大手郭、西の丸、北の丸をめぐって最後は北の郭の八丁堀上御門から外へ出るというコースをたどっています。これを見ると城内のほとんど全域をまわっていますが、二の丸、本丸へは足を踏み入れていません。そして、表御門のところで「此御門より内へ平人出入事かたし」と記されています。どうやら一般人は表御門

のところまでは比較的自由に入れるものの、そこから内側、広島城の中核部である二の丸や本丸へは立ち入ることができなかったようです。

このことは当時の法令からも確認できます。江戸時代に出された法令を見ると広島城内の門の厳重度には3つのランクがあったようです。もっとも厳重なのは本丸・二の丸の出入口にあたる表御門・中御門・裏御門の3門です。これらの門では、他国の者や女性、手傷を負った者、不審者などは決して通してはいけないとされています。また、享保6年(1721)には、通常の場合登城する者以外は昼夜ともに一切通すなといひ、元文2年(1731)には、町人・百姓が通るときはよくよく吟味するようといひつた通達も出されています。

これら3門に次いで厳しいのはお城の周囲の門です。こちらの門は、日中は自由に出入りすることができましたが、夜の間は夜五時(午後8時頃)から翌朝の明六時(午前6時頃)まで閉じられ、出入りすることができませんでした。ただ、城内に急病人が出た時だけは、指定の焼印が押された札を持った医師は通ることができました。

その次に位置づけられるのは、中堀に囲まれた内大手郭の出入り口にあたる南御門・西御門・北御門の3門です。これらの門は、昼間は自由に通行でき、夜は閉じられて通行禁止になることは外側の門と同じですが、用があれば大門の脇のくぐり戸を通ることができました。部外者は外側の門でシャットアウトされ、城内にいるのは基本的に藩士だけということからだろうと思われまふ。ただし、これら3門を夜間に通行する者の名前は帳簿にひかえられ、1か月ごとにまとめて報告されていました。

このように、いくつもの門で区切られていた広島城ですが、明治維新後は城郭としての機能を失い、それにとまってお城と城下町を区切っていた門や櫓は次々に取り壊されます。そして、最後まで残っていた表御門と中御門も原爆によって焼失してしまいました。

それから46年後の平成3年(1991)、表御門が往時の姿に再建されましたが、現在はかつてとは違って、24時間、誰でも門をくぐって二の丸や本丸へ行くことができます。(村上)

広島城の形の秘密と・・・



城についてまだ勉強中！

「ひさしぶりだね！」



広島城についてとても詳しい

「ひさしぶりだな、しろうとくん！ところで今日は広島城天守閣の形について聞いてみよう。この写真は天守閣の北西にある出っ張りだけど、気づいていたかな？」



「知らなかった。出窓みたいに突き出ている・・・」

「これは石落としというところで、迫ってきた敵に対して物を落としたところだ」

「なるほどね。ところで、石落としのある1・2階とその上は少し形が違っているね」

「よく気がついたね。2階までの建物の屋根の上に3階から上がのっている感じがするね。広島城が建てられた頃の城は、こんな形をしている城が多いんだ。これを望楼型^{ぼうろう}というんだ。名古屋城など、もっと新しい城は層塔型^{そうとう}というんだ」



「なるほど！ところでへの字の形をした飾りがユニークだね」

「これは破風^{はふ}というんだ。この破風の先っぽや屋根の先の方は、とが^{とが}尖った形をしているね。そこがかっこいいところだ。東西南北のそれぞれの面を見てみよう。違いが見つかるかもよ」

「への字」

「そうだね！でも、天守閣^{まわ}の廻りを一周廻っても上の方も見えないし、形がよくわからないかも・・・」

「しろうとくん！いいものがあるよ。最近広島城のペーパークラフトが発売されたよ、300分の1サイズで、細かいところまで良くできているんだ。広島城で売っているから、つくって飾ってみよう!!!」

(玉置)



広島城のペーパークラフト
定価840円

しろうや！

広島城

編集・発行
財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町 21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

平成22年6月4日発行

「しろうや！広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00
(12月～2月の平日は9：00～17：00)

入館の受付は閉館の30分前まで

入館料：大人360円(280円)

小人180円(100円)

()内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～1月2日

臨時休館(平成22年12月13・14日)

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>



携帯サイト